

概要版

令和5年度第1回野洲市MIZBEステーションかわまちづくり協議会 会議録

開催日時 令和5年11月20日(月) 午前10時00分～11時30分  
場 所 市役所本館3階 第1委員会室  
出席者 委員7名中7名(うち代理1名)  
傍聴者 10名

1. 開 会

事務局(野洲市都市建設部 次長)から協議会成立の報告

市長挨拶

2. 委員照会

3. 野洲市MIZBEステーションかわまちづくり協議会の設置について

資料1～3に基づく説明

4. 議事

(1) 野洲市MIZBEステーションかわまちづくり協議会について

①推進体制・取組内容について

②かわまちづくり等の計画エリアについて

資料4、資料5に基づき説明

主な質問・意見

F委員 MIZBEステーションエリア等の面積はどれくらいか。

事務局 MIZBEステーションエリアはおよそ10ヘクタール程度を想定している。かわまちづくりエリアが2～3ヘクタール程度で、これらは実測したものではなく航空写真からおおよそで計測したものである。

(2) かわまちづくりとMIZBEステーションについて

資料6に基づき説明

主な質問・意見

B委員 事務局の説明を補足すると、国土交通省の「MIZBE ステーション」と「かわまちづくり」の2つの制度を同時に活用しているところが分かりづらくしているが、使える制度は可能な限り使うと認識いただければと思う。

元々、MIZBE ステーションは河川防災ステーションとして、堤防が決壊したとき等の有事の際に資材を備えることを主目的としている。一方で、そのような事態は頻繁にあるものではないため、平時に利用しないというのはもったいないということで、MIZBE という少し柔らかめの名称に変えて、平時にも市民の方に利用いただけるような施設にするという施策である。

これに加え、「かわまちづくり」は、川をまちづくりに役立てていただくスキームであるが、かわまちづくりという事業に関する予算を確保するためには、地域の方を巻き込み計画を作って申請する必要がある。この協議会にて、今後の利活用方法についてご意見をいただき、計画をまとめたいと考えている。一番肝の部分となるので、忌憚のない意見をいただきたい。

F委員 参考資料1の5ページの推進主体とはどのようなものか。事業を実際に進めるのではなく、前段階での推進という理解でよいのか。

事務局 事業主体は野洲市や琵琶湖河川事務所となる。計画の申請者は、野洲市か本協議会の名前で申請することとなる。

### (3) 滋賀県立高等専門学校について

資料7に基づき説明

#### 主な質問・意見

B委員 11月にPFI事業の入札公告を行うとのことだが、これは施設の建設と維持管理に関するもので、カリキュラム等の学校運営に関することは対象ではないという理解でよいか。

事務局 そのとおりである。学校運営は公立大学法人滋賀県立大学が担う予定としている。

E委員 県有地はフラットではなく起伏のある形状であるが、環境保全共生エリアは、そのまま残していくのか、それともある程度整備して残すのか。

事務局 基本的には南側の森は現状のまま保全する考えである。ただ、環境団体が地域の憩いの場となるよう整備を進められており、高専の学生も一緒に環境活

動につなげていければと考えている。

C委員            どんぐり広場と南側の自然については、今後、具体的な活用方法を考えていかなければならない。森の中の高専というイメージで、学生も含めて環境保全活動を行う場所として有意義であるため、県としては一旦、手つかずのまま現状を保全する考えである。

(4) 野洲川河川敷を活かした新たなにぎわいづくり基本方針等について  
資料8に基づき説明

主な質問・意見

F委員            にぎわいの創出について、近年ずっと言われているのがスマート社会で、6年ほど前に society5.0 というものが出された。これからの施設はそれらに対応した施設でなければならないと思っており、災害時、この施設を利用するのであればそれなりの施設とする必要がある。例えば、野外フェスや音楽フェスのテントである。施設で備えておかなければならない。人が集まれば集まる程、有効活用しなければならない。

society5.0 にはモビリティ（移動利便性の高い手段や技術等）という要素があり、観光資源を活かすためには施設等に駐車場を設ける必要があるが、最近、施設を拠点として「周辺施設へはモビリティを利用して回る」ということができる。また、マルシェ等を行うと、日常から地元の観光資源や農産物を含めて循環的な社会を続けられるということが観光産業の強みである思っている。

私は society5.0 やスマート社会の要素を取り入れた計画がこれからのにぎわいのまちづくりの基本という考え方をしているが、どのように考えておられるのか質問したい。

事務局            先ほど資料8で地域課題に対する方針をお示したが、委員の質問は、にぎわい活動と危機管理、現地を整備するにあたっての交通アクセスと連携、マルシェという形での地産地消、地元農産物をしっかり活用してにぎわいの場とするということだったかと思う。

より具体的な方向性をお示しする際に、ご指摘のあった交通網の整備、にぎわい活動についてはどういう形で地元を巻き込んで進めていくかというところを実行委員会やこの場でご議論いただいた上で具体的に進めていきたいのでご指導願う。

F委員            今後、意見した内容も含めて検討してほしいという内容と理解した。近年の

異常気象やコロナで法の整備が進められた一方で、クリアすることが難しい問題もある。

スマート社会を考えるのであれば、防災拠点も含めて日頃から使える上水や下水、電源等をキャンピングカーが利用できると、1つのにぎわいのステーションとして役割を果たすのではないかと考える。災害時には上下水と電気の供給が可能な仮設のハウスを設けることができ有効に機能すると考える。防災施設でありながら日常使用可能な施設は、将来、絶対必要でそれがスマート社会と考えている。地元市民が一体となった持続可能な社会のひとつの構築になると考えるので、今後、検討していきたい。オートキャンプ場がにぎわっているが、使用方法が異なるので新しいキャンピングモールなどをして、全国から人を集めて観光資源を有効活用することで、新たな消費も生まれると思っている。それらを含めて検討する余地がある。

議長                   ご意見として承る。

C委員                高専用地として当該土地を選んだ経緯に、野洲川が流れて、広大な土地があるため、ドローンの実証実験や高専の実証現場としても使えるのではないかとということがあった。土木技術研修場を設けるということもあり、ご意見にあったようなハイスペックな情報技術社会という考えに高専も協力させていただきたいと思う。土木技術研修場については、是非、国土交通省にも授業や課外活動で連携させていただきながら、この土地が技術人材育成の良いモデルとなるよう協議会でも前向きに議論しながら取り組んでいきたい。

B委員                土木技術研修場は土木関連の利用に限らなくて良いが、国として建設業界の今後の人材確保に期待するところが大きい。society5.0の話もあったが、野洲川沿いのフィールドを実習場所として活用いただき、今後の人材不足に備えてドローンやDXを実装できるよう取組として活用できればと考えている。

今後の議論の中で、そのような視点を取り入れていきたいが、MIZBEステーションやかわまちづくりのエリア全体については、具体的に「誰が」「どういうふうにやっていく」という所が難しい部分であるので、この協議会でも一緒に考えていただけるとありがたい。

「かわまちづくり」では、水辺に近づいていただけるような施設整備をできればと考えている。単に近づいて遊ぶだけではなく、ライフジャケットを着けるといった安全確保をしたうえで、沿川の人や他地域の方々が野洲川に入ってくださいと仕掛けを、一緒に考えられたらと思っている。場合によっては守山市と連携が必要かと思う。守山市で先日開催された全国川サミットでも守山市長から「是非子供達に琵琶湖に入ってもらいたい」とのご発言があった。

D委員 高専ができるということで、学生が駅から通うことになると思うが、駅からどのようにアクセスするのか。また、学生寮があるとのことだが、規模はどれくらいか。スポーツパークとあったが、上流の右岸側に野球場をメインとした公園、対岸の栗東側にはサッカーをされているイメージがあるが、地域の方のニーズがどの程度あるのか。何かに特化したスポーツパークにされた方が良く考えている。

私も高専出身で県内に高専ができることはうれしく、この地域で実習や研修ができることは大変良いことである。私の出身校では学生祭をしていたが、土木学科の学生だけで数十メートル足場を組んで展示物を作ったりしていた。広場を利用して地域の方々に「こういうことをしている」と見せる機会を与えられたらと思う。

事務局 高専整備や MIZBE ステーション整備に合わせた道路整備については、市で道路整備計画を策定しており、高専の通学路と道路整備に向けて地元説明を進めている。拠点となる施設ができるので、アクセスについても念頭に入れながら検討を進めていきたい。

スポーツパークはご意見いただいたとおり、右岸左岸の施設と住み分けをし、人が集まれるような施設を目指して進めていければと思っている。次回以降、スポーツパークの概要等を提案させていただくのでご意見をいただきたい。土木研修場の利用については、先ほど施策でお示ししたような活用ができるよう整えていきたい。

C委員 学生寮は50人程度を想定している。学生全員で600人になるが、新快速が停車する野洲駅の近くという利便性の高い高専で、「通える高専」を標榜している。一方では、全国から学生に来ていただきたいという思いで50人程度の寮を設ける。1年次から3年次までは寮で過ごし、残り2年間は寮を出て地域の中で暮らすということも考えられる。

地域に開かれた高専ということ全体をコンセプトに位置付けているが、資料7の最後のページの図のとおり、プライベートエリアは、原則として教職員、学校関係者のみの立ち入りを想定しているが、セミパブリックエリアに予定する図書・交流拠点施設は図書館やホールを備え、企業の方と共同研究したりできるスペースを設けている。ぜひ色々な人に使っていただきたい施設で、地域に開かれた高専としたい。質問のあった学生祭は、校地内にも余白のスペースを設ける予定であり、具体の開催方法を考えたい。

G委員 資料7の最後の図に通学通用門があるが、野洲駅北口から学生はどの道を通るのか。自転車通学を考えているのか。通学路には車が通るのか、信号が付くのか、教えていただきたい。また、駅前北口は駐輪場が満杯近い。不法駐輪

も増えてきおり、今後、学生が増えるにつれて、北口に問題が集中するのではないかと懸念している。

事務局　　まず、通学路は地元の方々にルート案を示しながらご理解をいただいている段階であるので明確にこのルートと決まったものがないことをご理解いただきたい。北口の通学上の課題についても、高専開校と併せ、もう一度確認したうえで対応したい。現段階では駐輪場を含めてどうするかについては議論していないので、今後検討していきたい。

G委員　　信号が北口から京セラ間で2ヶ所しかなく、小学校の通学路とも重なっており、朝は通勤途上の車が多く事故等が増えている。地域の地権者の方も事故を心配しておられるのでよろしくお願ひしたい。

C委員　　昨年度、自治会に対する説明会の中でも高専が出来た際の駅前の治安について心配のお声をいただいたが、現時点で明確にこういう対策をするとは申し上げられない。高専ができて5学年全員が揃うのはしばらく先であるが、地元の皆さんともしっかりと意思疎通を図りながら、より良い方法を考えていきたいので引き続きよろしくお願ひする。

G委員　　プライベートエリアに「地域住民等の立ち入りは制限する」とあるが、どういう意味か。塀で囲むのか。

C委員　　他の高専と同様であるが、学生が学ぶ場所であり、実習工場や実験工場には危険な場所もある。塀で閉鎖的に囲むことは考えていないが、安全配慮のため、一定、門や柵を設けて不特定多数が入ることがないようにしたい。

#### (5) 今後のスケジュール及び当面の予定について

資料9に基づき説明

#### 主な質問・意見

B委員　　先ほど言いそびれたが、現在、色々な施策案をお示しいただいており、これらを具体的にしていくのが計画案ということになるが、「誰がするのか」が難しいところと思っている。例えば、サイクルパークなどの平時の賑わい創出や民間企業等による河川空間の利活用の検討にあたっては琵琶湖河川事務所が弱いところで、どういうニーズがあって、どのような方が関わってくれるのかというところを今後の計画案の作成の段階で議論いただき、施設がより有効に活用できるような計画案としたい。計画案なので必ずしも計画どおりと

進まないこともあるかもしれないが、なるべくその魅力を活用できるように議論していただきたい。

議長           ご意見として承る。

## 5. 閉 会

野洲市都市建設部長挨拶

以上